

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成20年7月10日(2008.7.10)

【公開番号】特開2002-348481(P2002-348481A)

【公開日】平成14年12月4日(2002.12.4)

【出願番号】特願2001-157040(P2001-157040)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 J 5/00 (2006.01)

C 0 8 L 21/00 (2006.01)

C 0 8 L 25/14 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 J 5/00 C E R

C 0 8 J 5/00 C E Z

C 0 8 L 21/00

C 0 8 L 25/14

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月22日(2008.5.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記一般式 (I) で表される (メタ) アクリル酸エステル 0.5 ~ 15 質量%と、芳香族ビニル化合物 85 ~ 99.5 質量%とを重合して得られ、重量平均分子量 (Mw) が 5,000 ~ 200,000 の範囲であり、分子量分布 (Mw / Mn、但し Mn は数平均分子量) が 4.0 以下である共重合体 (A) と、熱可塑性樹脂 (B) と、ゴム状弾性体 (C) とを含んでなることを特徴とする熱可塑性樹脂組成物。



(式中、R¹ は水素またはメチル基を表し、R² は炭素数が 2 ~ 20 の炭化水素基を表す。)

【請求項 2】

共重合体 (A) の含有量は、熱可塑性樹脂 (B) およびゴム状弾性体 (C) の合計量 100 質量部に対して 0.1 ~ 15 質量部であり、熱可塑性樹脂 (B) の含有量は、熱可塑性樹脂 (B) およびゴム状弾性体 (C) の合計量 100 質量部に対して 40 ~ 90 質量部であり、ゴム状弾性体 (C) の含有量は、熱可塑性樹脂 (B) およびゴム状弾性体 (C) の合計量 100 質量部に対して 10 ~ 60 質量部であることを特徴とする請求項 1 記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 3】

共重合体 (A) はカルボン酸塩存在下で乳化重合法により得られ、共重合体 (A) の粒子分散液からの回収は酸析凝固によるものであることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 4】

熱可塑性樹脂 (B) は、ポリカーボネート系樹脂、ポリフェニレンエーテル系樹脂、ポリエステル系樹脂およびポリスチレン系樹脂からなる群より選ばれる少なくとも 1 種以上

の樹脂であることを特徴とする請求項 1 乃至 3 何れかに記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 5】

ゴム状弾性体 (C) は、アクリロニトリル - ブタジエン - スチレングラフト共重合体、アクリロニトリル - アクリル酸 n - ブチル - スチレングラフト共重合体、スチレン - アクリロニトリル - シリコングラフト共重合体、メタクリル酸メチル - ブタジエン - スチレングラフト共重合体およびアクリロニトリル - エチレン - プロピレン - スチレングラフト共重合体からなる群より選ばれる少なくとも 1 種以上の弾性体であることを特徴とする請求項 1 乃至 4 何れかに記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 5 何れかに記載の熱可塑性樹脂組成物を射出成形、押出成形または押出ブロー成形することにより得られる成形品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

即ち、本発明によれば、下記一般式 (I) で表される (メタ) アクリル酸エステル 0.5 ~ 15 質量%と、芳香族ビニル化合物 85 ~ 99.5 質量%とを重合して得られ、重量平均分子量 (Mw) が 5,000 ~ 200,000 の範囲であり、分子量分布 (Mw / Mn、但し Mn は数平均分子量) が 4.0 以下である共重合体 (A) と、熱可塑性樹脂 (B) と、ゴム状弾性体 (C) とを含んでなることを特徴とする熱可塑性樹脂組成物が提供される；



(式中、R¹ は水素またはメチル基を表し、R² は炭素数が 2 ~ 20 の炭化水素基を表す)。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

共重合体 (A) において、モノマー成分の比率は、熱可塑性樹脂組成物および得られる成形品の耐熱性の観点から決定される。即ち、一般式 (I) で表される (メタ) アクリル酸エステルは 0.5 質量%以上とされ、1 質量%以上がより好ましく、一方、15 質量%以下とされ、10 質量%以下がより好ましい。また、芳香族ビニル化合物は 85 質量%以上とされ、90 質量%以上がより好ましく、一方、99.5 質量%以下とされ、99 質量%以下がより好ましい。